

知らないうちに、拡めちゃうから。



STOP!
感染拡大
— COVID-19 —

聴講をご希望の方は事前にお申込みをお願いします。

お申込み 7月1日～(先着順)

定員 64名

・ホームページ [佐賀城本丸歴史館](#)

・電話 0952-41-7550

・館内受付カウンター

御予約の際、氏名・住所(市町)・電話番号を必ずお聞きします。個人情報保護法に基づき、講演会関連の御連絡、コロナウイルス対応以外での使用はございません。

佐賀偉人伝特別講演会／歴史館ゼミナール186

サムライはなぜ竹を描いたか

草場佩川の墨竹

それは現代人が想起する「絵画」とは

まったく異なる営為といわざるをえない

令和2年

7月18日(土)

13時30分～15時(開場13時)

場所 佐賀城本丸歴史館 外御書院

講師 古川英文(当館副館長)

聴講無料

佐賀県立佐賀城本丸歴史館

佐賀市内 2-18-1

なぜ東アジアの掛軸にはしばしば竹が描かれるのだろうか？

「竹の佩川」の異名をもつほど多くの墨竹画をのこした草場佩川(1787-1867)。弘道館教授という経歴で知られるが、武術に秀で、役人としても有能であった。さらにバリンガル。知識人たちがこぞって面会を望むほど、佩川の名は全国に轟いた。マルチタレントともいうべき佩川が描く墨竹には、孝行、脱俗、隠遁などさまざまな意味が寄せられている。画竹(絵)と自賛(漢詩)をたよりに佩川が「竹」を描いた意図を探りたい。

